



巻頭言 コロナ禍と議員・議会の役割

コロナが日本中世界中を席卷しましたが、緊急事態宣言も解除され日常が戻りつつあります。一方で、もはやコロナ前の生活には戻れず、「新しい生活様式」でどうコロナと共に暮らしていくかを考える時代にもなりました。コロナがこれ以上の影響を我々の生活に及ぼしていかないように、政治の力で踏ん張らなければなりません。今回の巻頭言はコロナ禍と議会のあり方ということで書いてみます。

今回の定例会、我が安曇野市議会では、一般質問の持ち時間が20分から10分に短縮されました。コロナ感染対策で、議場も3密になるため、なるべくその時間を減らすことになったのです。これは全国の地方議会と同様に見られ、中には行政にコロナ対策に専念してもらうために、「議会は不要不急の質問はしない」と一般質問自体を取りやめた議会もありました。でも、これっておかしいと思いませんか？「有事こそ政治の出番なのに、その一翼を担う議会が自粛してどうすんだ？」、「それでいつもと同じ議員報酬をもらうのか？」、「行政は頑張ってるのに、議会は何やってるんだ？」そう思う市民の方は多いはず。市政の一翼を担い、市民に一番近いとこ

ろにいる議員や議会が腕をまくり、市の支援策に対して足りない部分を見極め、支援から漏れている内容が無いかどうかを議論して、議会ならではの提言を行政にすることが我々議会の役割です。

このことを、私は議会全員協議会で提案し、機会あるごとに言い続けています。議長はそれを受けてくださり、議会運営委員会で議論するように指示し、各常任委員会ごとに課題を整理し、要望をまとめるための議論をするということになりました。

各議員が個人として行政に働きかけていることはありますが、二元代表制を担う機能体としての議会が、議員間の討議を重ね、行政に対して要望を出すということが、我々議会はまだまだやり慣れていません。今回のコロナ過をキッカケに、議会の役割や責任をもう一度議会で議論し、行政に政策提案できる議会へと脱皮していかなければなりません。

市民のみなさんの生活や暮らしにコロナによる負担や困窮がある場合、お気軽に望三郎までご相談ください。

安曇野まちづくりトークのご案内

議会報告を兼ねて安曇野のまちづくりを市民と議員が車座で話し合う「安曇野まちづくりトーク」を開催します。今回はコロナの影響



みなさん、こんにちは。安曇野市議会議員の増田望三郎です。安曇野市政が市民にとって身近になるために、虹(= Rainbow レインボウ)の架け橋となるよう活動報告をお届けします。望三郎の活動はブログやフェイスブックでもどうぞ。→「増田望三郎」で検索。

により中止しましたが、今回は感染対策をした上で開催します。また実会場とは別に**オンラインでの開催も試験的にやってみます。**こちらもぜひご参加ください。参加議員は望三郎、小林純子、林孝彦議員の3名です。

・会場開催

♪日時：7月18日(土) pm2:00～4:00

♪場所：穂高会館第3会議室

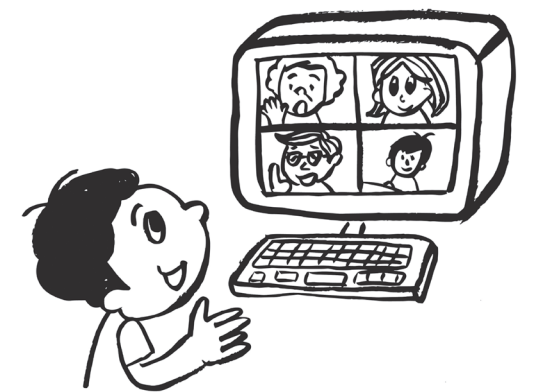
初の試み！ オンライン開催！

動画アプリ Zoom を使ってオンラインでも開催します。各ご自宅からパソコンやスマホなどでご参加ください。我々議員も各自宅から行います。参加者には事前にリンクアドレス

をお伝えしますので次のアドレスに21日までにご連絡ください。

申込→ boetu@d6.dion.ne.jp

♪日時：7月22日(水) pm7:00～9:00



サポーターからの応援メッセージその25



山之内里冴さん(穂高、心とからだの総合セラピスト)

望ちゃんとの出会いは、地球宿が始まって間もなくだと記憶しています。友人の紹介です。楽しくおしゃべりして、帰りに温泉入ってこうということになり、しかし急だったのでタオルも持参してなく。すると、タオルならあるよ！と、新品のスポーツタオルを渡してくれました。その気さくさ、優しさ、初めて会う人も親しい友人も分け隔てなく付き合える方だと確信したのです。その後何度か地球宿へ遊びに行きました。三男のダウン症の大悟を温かく受け入れてくれました。それから何度か子どもの相談にも乗っていただいています。どんなに小さなことでも一個人の意見を尊重し、真剣に考える。自分だけでなく、みんなで考えよう！と共有する。もちろん、個人的な相談は内密に聞いてくれるし。こんな市議いるかなあ、と思います。

議会での仕事は、大変忙しい毎日です。地球宿もやりながら田畑もあり、なかなかできることではありません。ウーファーの受け入れ、若者の育成にも力を入れている。色々な問題に対し真っ直ぐ向き合う真剣さ、安曇野を心から愛し、未来の子どもたちに素晴らしい安曇野を残そうという姿が見えます。いつも前向き。愛があふれ、思いやりがあり、私は何しろ熱い男が好きです。今後も、増田望三郎氏を応援していきます。

6月定例会の一般質問

《質問1》コロナ禍に促される、学校教育の次世代型へのバージョンアップ

【解説】

コロナ禍により、様々な社会機能が停止しました。その一つが学校教育です。子どもたちが学校に集まることができず、学校は子どもたちにプリントを出すことが精一杯でした。このことを責めることはできませんが、次も同じように宿題プリントということではダメです。「1人1人の学びの最適化を図る」という趣旨で国が提唱する GIGA スクール構想（1人1台の端末を用意し、オンライン学習を取り入れる）を活用して、有事にも対応でき、かつ平時においても、子どもたち1人1人に最適な学びを保障する次世代型の学校教育へのバージョンアップが求められています。

望市議 3か月近い休業期間、学校は子供たちに十分に学びを保障できたのか。

教育長 一年間の学習内容の定着を図るよう、家庭学習用の課題を作成した。

望市議 子供たちに学びの機会をしっかりと保障できるよう、オンライン教育の可能性はどう考えるか。

教育長 児童生徒との接触ができない中で、オンライン上の双方向のやりとりは、つながりをタイムリーに実感し、心の安定を図るには優れたツールだ。

望市議 国はGIGAスクール構想の前倒しを決めた。文科省は、これ以上教育の格差を起こしてはならないと、各自治体にその推進を力強く求めている。コロナは既存の学校教育では、十分な学びの機会が保障できないことを露わにし、オンライン教育の導入を促し

ている。学校教育は次世代に向けてどう変わるのか。

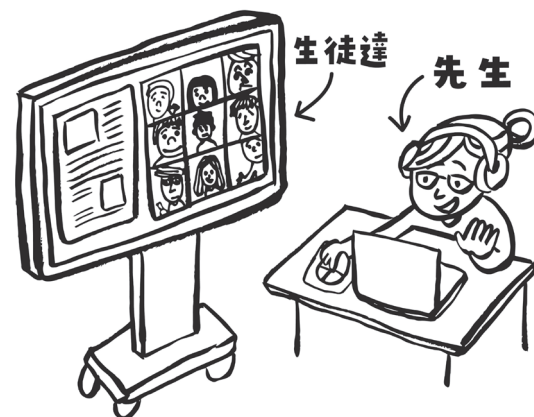
教育長 習熟度に応じた個別学習等が考えられる。また導入した電子黒板と1人1台の端末を組み合わせ、多様な考えを共有し、議論を発展させることができる。遠隔授業の展開も想定され、様々な新たな可能性や広がり期待される。

望市議 オンラインとオフラインを組み合わせた次世代型の学校教育は。

教育長 農業体験などこれまで以上に体を動かす機会を作り出し、オンライン教育でできることと、そうでないことのバランスをとって子供たち一人一人の学びに生かしていくことが大事。

望市議 GIGAスクールを実現する学校では人的体制が不十分。ICT支援員の配置とICTに強い先生方で授業改善の研究会を市教委主導で立ち上げられないか。

教育長 研修は必要だが、教師自身がその必要性を強く感じ、どのように子供たちに活用していくのかという考え方を持つことが必要である。ICT支援員配置は次の段階。各校のICT推進の先生方と情報を共有し検討していく。



多文化共生のあり方

コロナにより我々の暮らしに様々な問題が起こっています。問題が明確になっていれば対

応を考えることができますが、中には「(問題としてあるのに、) が見えてこない。」ケースもあります。その一つが外国由来の方たちの仕事や暮らしが今どうなっているかです。外国由来の方たちとは、海外から日本に働きに来た技能実習生や日本に何らかの由来があって暮らしている方たちのことで、市内にも1200人を超える方たちがいます。今回のコロナによる生活の窮状は日本人も同じなのですが、外国の方たちは言葉の壁や地域とのつながりが希薄になりがちのため、実態が把握されにくいのです。

5月初め、外国由来の方たちの暮らしや言葉の学習をサポートする市民グループ「あづみの国際化ネットワーク(AIN)」の方たちと一緒に、市内在住の外国の方たちを訪問しました。そこで分かったことは、若い実習生たちは、小さなアパートに3~4人で暮らしており、そこでStay homeすることはストレスがかかっているということ。また戸建住宅街の中に、日本人家庭に交じって、家を建てて暮らすファミリーがいること。5年10年と安曇野で働き暮らす中で、頑張って家を建てたのですが、コロナによりローンの支払が滞ったり、非正規職員のために解雇される可能性があること。困っている彼らを行政のセーフティーネットで救うために、AINのような靴のかかとをすり減らして、困りごとをヒアリングする寄り添おうとする活動が必要なこと。弱者ほど、有事に影響をモロに受けるので、小さな声を拾い上げられる市行政であり、多文化共生の地域コミュニティーでなければならないと思いました。

コロナ禍に対するご相談を望三郎に気軽にお寄せください。
携帯 080-5486-6111 boetu@d6.dion.ne.jp

